

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	A-110	14-039
滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門		
題名 (原題/訳)		
Small area associations between social context and alcohol-attributable mortality in a middle income country. 中所得国における地域における社会的背景とアルコール起因性死亡の関連性		
執筆者		
Castillo-Carniglia Á, Kaufman JS, Pino P.		
掲載誌		
Drug Alcohol Depend. 2014 Apr 1;137:129-36. doi: 10.1016/j.drugalcdep.2014.01.020.		
キーワード		PMID
アルコール、階層ベイズモデル、教育、所得、死亡		24582385
要 旨		
<p>背景と目的： 全体的あるいは部分的に飲酒の寄与を検討する際、アルコール起因性死亡と小地域の社会経済的変数との関連性については検討されていない。この研究の目的は、チリの 345 の市町村において全アルコール関連死亡と社会経済学的変数の関連性を明らかにすることである。</p> <p>方法： 2004 年から 2009 年までの間、チリの全国 345 市町村の 15 歳以上を対象に生態学的調査を実施した。飲酒に起因する死亡は死因ごとに寄与割合を推定した。各市町村はその平均所得と教育歴によってそれぞれ五分位に分類した。階層ベイズモデルを用いて関連を検討し、アルコールに起因する死亡は原因によって、神経性神学的疾患、心血管疾患、癌、感染症、その他の疾患、不慮の外傷、自傷の 7 群に分割した。所得及び教育の五分位中の一分位の増加とそれらの原因による死亡のリスクについて標準化死亡比 (SMR) を求めた。</p> <p>結果： 生態学的レベルでのアルコール起因性死亡のリスクは、所得及び教育と負の関連を示した。所得の五分位中の一分位の増加は、心血管疾患死亡で 10% (95%信頼区間：10~20%)、自傷による死亡 (つまり自殺) で 8% (6~10%)、不慮の外傷による死亡で 7% (3~11%) の平均的なリスク減少と関連していた。癌による死亡及びその他の原因と、所得及び教育との関連性は、見いだされなかった。</p> <p>結論： チリにおける平均の所得及び教育歴が短い市町村では、アルコール起因性死亡のリスクは高値であった。</p>		